芯地の消費性能

弘前大教育　○盛　玲子　羽賀敏雄

目的　芯地は主として表地の保型性のために表地とともに使用され、衣料の副素材に位置づけられている。芯地の消費性能は古く山田が詳細に述べている[1]が、今日に至るまで家庭洗たくによる消費性能の変化についての研究はあまり多くはないようである。ここでは市販の芯地27種類について、10回の洗たく処理を行い、これに伴った消費性能の変化を、単に水に浸せき処理したものと比較検討した。

方法　試料には織物，不織布、ニットを用いた。洗たく方法は、家庭用電気洗たく機を用い、ナイロン100％の洗濯ネットに試料布を入れ、浴比1:30、マルセル石けん0.1％，40°Cで5分間，弱水流で洗たくし，この操作を10回繰り返した。水浸せきは，25°Cの水に30分間浸せきした。ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙ形摩耗試験機，ASTM形保温性試験機，ﾌﾗｼﾞｰﾙ形通気度試験機などによって消費性能を測定した。

結果　収縮率，厚さ，通気度，曲げかたさ，摩耗強度，保温率，強伸度，ヤング率について，全試料布の性能変化を概観するために平均値の差の検定を行った。未処理試料に対する変化量の絶対値は水，洗たくのいずれの場合も，各項目とも有意性がみられ，単なる水浸せきでも変化量が大きいことを示している。数量化理論Ⅰ類によって解析した結果，布組織，糸構造，組成，布表面の接着樹脂層の有無が処理に伴った消費性能の変化と関係があると推察された。

本研究は昭和62年度文部省科学研究費補助金一般研究（C）によった。

[1] 山田都一：繊消誌，14，319(1973)